

平成30年7月豪雨愛媛大学災害調査団 (第3回定例会見)

1 日時

平成30年8月3日(金) 14:00~14:45(予定)

2 場所

愛媛大学社会連携推進機構2F 研修室

3 進行

調査団員(社会共創学部・助教)

片岡 由香

3 対応者

(1) 河川構造物被害調査

調査団員(防災情報研究センター・教授)

岡村 未対

(2) 平成30年7月豪雨による愛媛県の斜面崩壊分布図(第一報)

調査団員(法文学部・講師)

石黒 聡士

(3) 文化財保護について

調査団員(法文学部・教授)

胡 光

4 配付資料

平成30年7月豪雨による愛媛県の斜面崩壊分布図(第一報)

文化財保護について

1 愛媛資料ネットとは

2001 年 3 月 24 日の芸予地震を契機に設立。愛媛大学法文学部に事務局。県内の博物館や郷土史会と協力しながら、失われていく歴史資料の救出・保全活動を行う。

2 西日本豪雨における文化財の被害と保全活動

(1) 国・県・市町指定文化財

県教育委員会文化財保護課が市町と協力して対応

(2) 未指定文化財

愛媛資料ネットが県・市の博物館や郷土史会と協力して対応

3 これまでの保全活動

(1) 大洲市内の旧家から被災直後に古文書・書籍救出

3 件約 20 箱、洗浄・乾燥作業を実施

(2) 宇和島市吉田町から古文書・書籍救出

1 件約 100 箱 4000 点、大量のため今後の洗浄・乾燥作業に備えて、冷凍して保管中

緊急避難した民間冷凍庫から、愛媛大学沿岸環境科学研究センター ES-BANK へ搬入予定 (8/6)

(3) 大洲市内の旧家で被災した甲冑などの復旧作業

(4) 大洲市・八幡浜市と共同で被災写真レスキュー講座開催

(5) ツイッターで資料保存の呼びかけや写真救出法の公開

4 今回の保全活動の課題と対策

(1) 水損資料の取り扱いが困難で緊急を要すること

資材や冷凍庫の確保、救出・保全活動の多様化・長期化 →多方面の協力

(2) 広域災害と甚大な被害のため、救出が追い付かない →県外からの協力

=====

【担当】胡 光 EBESU Hikaru

愛媛大学法文学部教授／愛媛資料ネット事務局長

〒790-8577 愛媛県松山市文京町 3

ebesu.hikaru.me@ehime-u.ac.jp / TEL&FAX 089-927-9316